人格特性と夢見の関連性

椿健太朗（指導：福田一彦教授）

キーワード：夢、人格特性

序論・目的

これまでに夢と現実の出来事の関連についての研究は度々行われてきた。例として Kron, and Brosh. (2003) は、妊娠中の夢で産後鬱は予測できるかについて女性 166 人を対象に検討したところ、産後鬱になった人よりもならなかった人の方が不快な夢や不安を煽る夢を見ていた、という結果が出ている。

また Nielsen *et al.* (2003) がカナダの大学生 1181 人を対象によく見られる夢の内容を調査した研究では、男性はポジティブな内容の夢（幻想的な物語や、超常的な力を持つ夢など）を見やすく、女性はネガティブな内容の夢（失敗したり、虫やヘビの夢など）を見やすいという結果が出ている。以上のように夢の内容と個人の特性には関連があるということが報告されている。そこで今回は夢見と人格特性の関連を検討する。

方法

江戸川大学の心理学系の授業において、学生 186 名（男性 95 名、女性 91 名、平均 19.3 歳）を対象とした質問紙調査を実施した。調査に使用した質問紙は、90 項目ある夢の内容の中からこれまで見たことがあるものを 2 件法（1. 見たことがある、2. 見たことがない）で回答するというものである。この質問紙は Griffith, Miyagi, and Tago. (1958) の質問紙（34 項目の夢の内容からこれまで見たことがあるものを回答するもの）と、Nielsen *et al.* (2003) の Typical Dream Questionnaire（55 項目の夢の内容を中からこれまで見たことがあるものを回答する質問紙）の 2 つが基になっている。この 2 つを比較して最大限利用できる項目を残し、Griffith, Miyagi, and Tago. (1958) が使用しなかった 12 項目と Nielsen が使用しなかった 6 項目を追加すると項目数が 74 項目となった。そこから重複している項目を削除した 73 項目を上記 2 つの質問紙から使用した。さらに江戸川大学学生から自由記述で回収した新規の 17 項目を加えた合計 90 項目を調査に使用した。

この 90 項目の内容は大きく 3 つに分類される。まず Nielsen *et al.* (2003)の使用した 55 項目を改変せず使用した「TDQ 項目」、Griffith, Miyagi, and Tago. (1958) が使用しなかった 12 項目と Nielsen が使用しなかった 6 項目を再現した合計 18 項目の「改変項目」、新規 17 項目を使用した「新規項目」の 3 つである。

上記質問紙で得た夢見の内容と人格特性の関連を見るために NEO-FFI を使用した。これは大学生や成人(21 歳以上)を対象とした質問紙で、5 つの次元（N:神経症傾向 E:外向性 O:開放性 A:調和性 C:誠実性）から人格を把握する質問紙である。今回は夢見の質問紙の結果の因子分析を行い、相関の検討と、各因子を独立変数、NEO-FFI を従属変数とした重回帰分析を行った。

結果および考察

分析の結果、「落下や飛行」「死や暴力」といったネガティブな内容の夢を見ない人の方は NEO-FFI の N（神経症傾向）が高い (Figure 1)。また上記のようなネガティブな内容の夢を見る人は NEO-FFI の A（調和性）が高いという結果を得た (Figure 2)。

以上の結果から、ネガティブな内容の夢を見る人は夢の中で不安な体験をすることで不安感情を解放し、神経症傾向を低くしているのかもしれない。一方ネガティブな内容の夢を見ない人は不安感情を解放することができず神経症傾向が高くなっているのかもしれないという可能性が考えられる。もう一つの可能性として、ネガティブな内容の夢は人格特性と関係なく誰でも見るが、神経症傾向が高い人や、調和性が低い人はネガティブな内容の夢を抑圧し、その結果夢が報告されないという可能性である。それ以外に、誰かと出会う夢を見ない人は E（外向性）が高いという結果も出ている。外向性が高い人は現実で人と出会う機会が多い人ではないかと考えられる。一方外向性が低い人は現実で誰かと出会う機会が少ないのではないかと考えられる。つまり現実で人と出会う事が少ない人は夢の中で誰かと出会うことで他者とのコミュニケーションの少なさを補償しているのではないかという可能性が考えられる。

結果を全体的にみると、夢の中と日中の状態とでは逆の体験をしており、夢の中と現実とでバランスを取っているのではないかということが考えられる。

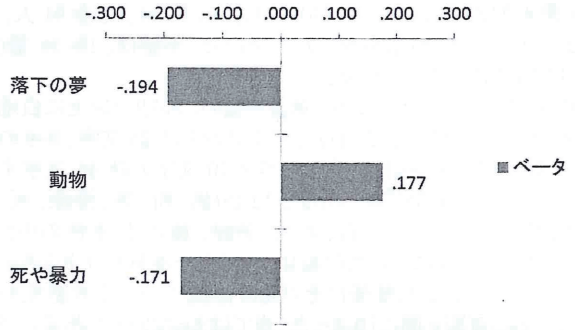

Figure 1 TDQ 項目と NEO-FFI(N)の重回帰分析

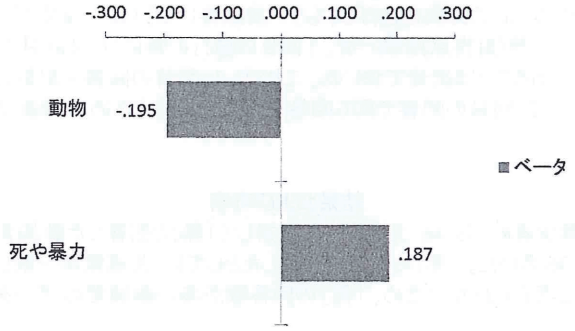

Figure 2 TDQ 項目と NEO-FFI(A)の重回帰分析

引用文献

1. Griffith, R.M., Miyagi, O., and Tago, A.,(1958) The Universality of Typical Dreams: Japanese vs. Americans. *American Anthropologist*, **60**, 6, 1173-1179.
2. Kron, T., and Brosh A. (2003) Can Dreams During Pregnancy Predict Postpartum Depression? *Dreaming*, **13**, 2, 67-81.
3. Nielsen, T.A., Zabra, A.L., Simard, V., Saucier, S., Stenstrom, P., Smith, C., and Kuiken, D. (2003) The Typical Dreams of Canadian University Students. *Dreaming*, **13**, 4, 211-235.